

I 0 1 - 0 1

研究報告 第420号

どの子ども「わかる」「できる」をめざす授業や学級づくり

ーユニバーサルデザインの視点をふまえた支援の工夫ー

平成27年3月

千葉県総合教育センター

目次

1	主題設定の理由	1
2	研究計画	2
3	本年度の研究	3
	【どの子ども「わかる」「できる」を促すための支援内容一覧表】	6
4	研究のまとめ	9
	主な参考文献	12
	研究協力校及び研究協力員	12
	資料	13

どの子ども「わかる」「できる」をめざす授業や学級づくり
～ユニバーサルデザインの視点をふまえた支援の工夫～

千葉県総合教育センター

特別支援教育部

研究指導主事 川寄 洋子 深山 博典
青木ゆかり 千田 茂

1 主題設定の理由

特殊教育から特別支援教育へ転換して8年目を迎え、小・中・高等学校においても、校内の体制整備が進み、通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズのある児童生徒の理解も徐々に広がりをみせている。一方で、平成24年に行われた文部科学省の調査では、通常の学級においては、知的発達に遅れはないものの学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒が6.5%（推定値）いることが明らかになり、それ以外にも、困難さがあり教育的支援を必要としている児童生徒がいる可能性があることが示された。また本センターの教育相談では、小・中学校の通常の学級や高等学校（以下通常の学級）在籍者の割合が高いことから、通常の学級においては、特別な教育的ニーズがありながら、十分な指導や支援が受けられずにいる現状がうかがえる。

学校現場では、「わかる授業」や学力向上をめざして、様々な指導や支援の工夫が行われている。学習指導や生徒指導を行う際の基盤となる学級づくりにおいても、どの子ども存在感と自己実現の喜びを味わうことができる場となるよう取り組まれている。千葉県教育委員会や本センターにおいても、これまで授業や学級づくりに関しての情報を提供してきた。

近年、教育現場では、「誰もが使える」「誰もが便利」というユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業や学級づくりに関しての研究が進められ、文献等で報告されている。そこで、これまで行われてきた指導や支援の工夫を、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れて見直し、整理することで、特別な教育的ニーズのある児童生徒を含めた、どの子ども「わかる」「できる」授業や一人一人の居場所がある学級づくりのための一つの在り方を提案できるのではないかと考える。

以上のことから、特別な教育的ニーズのある児童生徒に必要であり、その支援を行うことで他の児童生徒にとっても、より「わかる」「できる」につながるという見方を、ユニバーサルデザインの視点として捉え、その視点をふまえた支援の在り方について探ることとした。

本研究は平成24年度から3年計画で取り組んできた。1年次は、ユニバーサルデザインの視点をふまえた授業や学級づくりについて県内の実態を把握した。2年次は、研究協力校を中心に実践研究に取り組み、どの子ども「わかる」「できる」を促すための支援内容について整理し「支援内容一覧表 2013 版」を作成した。3年次にあたる本年度は、これを基に実践を深め支援内容一覧表を完成させると共に、支援内容一覧表に則した具体的な取組例をまとめ、支援内容一覧表とそれに基づく実践例を盛り込んだヒント集を作成し、どの子ども「わかる」「できる」をめざす支援の工夫として提供したいと考えた。

2 研究計画

(1) 研究の目的

特別な教育的ニーズのある児童生徒を含めた学級の児童生徒が、「わかった」「できた」と実感できる授業づくりや、その基盤となる学級づくりのための支援の在り方を明らかにする。

(2) 研究仮説

通常の学級で行われてきた指導や支援を、ユニバーサルデザインの視点で見直し、整理することにより、特別な教育的ニーズのある児童生徒を含めた学級の児童生徒が、「わかった」「できた」と実感できる授業づくりや、その基盤となる学級づくりのための支援の工夫について示すことができるであろう。

(3) 研究概要

- ① 1年次（平成24年度）県内小・中・高等・特別支援学校の現状と課題の把握
- ② 2年次（平成25年度）研究協力校や研究協力員所属校，研究協力員から紹介された学校（以下研究協力校等）での実践と支援内容の整理
- ③ 3年次（平成26年度）研究協力校等での実践と支援内容のまとめ

(4) 研究協力校・研究協力員及び講師

- ① 研究協力校
小・中・高等・特別支援学校から各1校（計4校）
- ② 研究協力員
特別支援教育課指導主事1名，教育事務所指導主事2名，小学校教諭2名，中学校教諭2名，高等学校教諭2名，特別支援学校教諭2名（計11名）
- ③ 講師
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 教育情報部
発達障害教育情報センター 総括研究員 梅田 真理

(5) これまでの研究

- ① 1年次
ア 研究内容
(ア) 質問紙調査を実施し，ユニバーサルデザインの視点をふまえた授業や学級づくりについて，県内各学校の現況と課題を明らかにした。調査は，県内小・中・高等・特別支援学校の通常の学級等の担任1,837人を対象に，特別な教育的ニーズのある児童生徒の在籍状況や日頃実践している支援の状況（40項目）等について行った。
(イ) 上記の質問紙調査を基に，研究協力校等で実際に取り組んでいる具体的な支援を学校種ごとに取り上げた。

イ 調査結果から把握できた現状と課題

通常の学級では、特別な教育的ニーズのある児童生徒が数名在籍し、教員は日々の実践に苦慮していることや、小学校や特別支援学校に比べ、中学校や高等学校では、必要と感じながら実践に至らない状況であることなどが明らかになった。

そこで、様々な支援の工夫を活用しやすい形で提供することで、教員個々の取組の充実を図ると共に、学年や学校全体での取組につなげることができるのではないかと考え、今後の研究の方向性を確認した。

② 2年次

ア 研究内容

(ア) 1年次の調査結果を基に「情報提示の工夫」「学習環境や時間の工夫」「ルール理解の工夫」「参加を促す工夫」の4つの視点で構成した「支援内容一覧表 2013版」の原案を作成した。

(イ) 原案を基に研究協力校等で実践し、各教員が取り組んだ支援の工夫や学校体制での取組を収集した。

(ウ) 実践から得られた情報をふまえ、原案を整理統合して、「情報提示の工夫」「学習環境や時間の工夫」「参加を促す工夫」の3つの視点で再構成し、「支援内容一覧表 2013版」としてまとめた。

イ 次年度への課題

収集した取組を「支援内容一覧表 2013版」に則して整理した結果、いくつかの支援内容に集中するなど偏りが見られた。「支援内容一覧表 2013版」の見直しを図りながら、具体的な取組例としてまとめるために、さらに情報を収集することが課題となった。

3 本年度の研究

(1) 研究内容

① 「支援内容一覧表 2013版」を基に研究協力校等で実践を継続し、実践から得られた情報を基に見直し、支援内容一覧表を完成させた。

② 支援内容一覧表に則した具体的取組例を研究協力校等の実践からまとめた。

③ 支援内容一覧表と具体的取組例等の実践例で構成するヒント集を作成した。

(2) 研究計画

月	研究協力員会議	支援内容一覧表の完成	具体的取組例のまとめ	ヒント集の作成
5	第1回(1日)	・「支援内容一覧表 2013版」を活用し、研究協力校等で実践 ・学校への訪問による具体的取組例の収集		・内容や構成について検討
6	今年度の研究内容の提案と協議			

7	第2回(9日) 支援内容一覧表 と具体的取組例 の協議	・研究協力校等の実践をもとに協議	・具体的取組例の内容や取り上げ方の検討 ・研究協力員への記載の依頼	・指導案や学校体制についての資料の収集 ・内容や構成、タイトルの検討
8		・意見収集 ・内容や構成の検討	・研究協力員による具体的取組例の作成	
9		・視点の変更 「情報提示」 「環境整備」 「学級集団づくり」	・研究協力員が作成した具体的取組例を収集し、支援内容一覧表に則して整理	・タイトルの決定 【ユニバーサルデザインの考え方に学ぶ どの子ども「わかる」「できる」をめざす支援の工夫 ヒント集】
10		・名称の変更 【どの子ども「わかる」「できる」を促すための支援内容一覧表】		
11		・内容の追加や整理		
11		・研究協力員からの再確認と意見収集	・研究協力校等へ確認	・学校体制を研究協力校へ確認
12	第3回(10日) ヒント集(案)の協議	・【どの子ども「わかる」「できる」を促すための支援内容一覧表】と具体的取組例等の実践例で構成したヒント集(案)の作成 ・ヒント集(案)についての研究協力校等の意見収集 ・会議等の意見をふまえてのヒント集(案)の修正作業 ・今後の活用計画		
1		・ヒント集の原稿完成 ・ヒント集のリーフレット原稿作成		
2		・ヒント集のWeb掲載準備と掲載(予定)		
3		・広報活動の計画		

(3) 研究の詳細

① 支援内容一覧表の完成

ア 名称

【どの子ども「わかる」「できる」を促すための支援内容一覧表】

イ 内容

授業づくりや学級づくりにおいて、これまで通常の学級で行われてきた、学力向上をめざした「わかる授業」のための工夫や配慮を基に、「特別な支援を要する子どもに必要な支援は、他の子どもにとっても助けとなり、あればよりわかりやすくなる支援である」という観点で整理したものである。

3つの視点で、支援の目的や、そのためにどのような支援の工夫をしたらよいかについて、一例を挙げてまとめた。

ウ 3つの視点と9つの支援の目的

(ア) 視点1「情報提示」

視覚的情報、聴覚的情報等の提示の仕方についての支援の工夫である。子どもたちは五感を有効に使い情報を処理しており、わかりやすい情報の提示や活用は、

子どもたちの「わかる」「できる」を促すことにつながると考える。以下の3つの目的で支援の工夫について提案する。

- ・読むこと，書くことを促す
- ・聞くこと，話すことを促す
- ・理解を促す

(イ) 視点2「環境整備」

活動に取り組みやすくするための環境整備についての支援の工夫である。生活や学習の場である教室環境への配慮，時間や教具等への配慮により，取り組む姿勢が調うと考える。以下の3つの目的で支援の工夫について提案する。

- ・落ち着いた取組を促す
- ・見通しをもつことを促す
- ・書くことを調整し思考を促す

(ウ) 視点3「学級集団づくり」

どの子どもも「わかる」「できる」授業づくりのためには，一人一人の意見が認められ，安心して活動に取り組むことができる学級集団が基盤となると考える。授業の基礎となる学級集団づくりについての支援の工夫である。以下の3つの目的で支援の工夫について提案する。

- ・表出意欲を高め理解を促す
- ・活動への参加を促す
- ・人間関係づくりを促す

エ 25の支援の工夫例

支援の目的ごとに，考えられる支援の工夫例を25例取り上げた。支援の工夫をすることで，めざす児童生徒の姿につながるよう整理した。

オ 具体的取組例

実践例を参考にすることでより具体的に支援の工夫について示すことができると考え，研究協力校等の実践を基に具体的取組例としてまとめた。

- (ア) 小学校・中学校・高等学校の取組を27例取り上げた。支援の工夫は小・中・高等学校において共通に取り組んでいる内容も多いため，学校種ごとに分けずに，一つの例に複数校の取組をまとめて作成した。
- (イ) より個々の実態に応じた支援の工夫例として，特別支援学校の取組を8例取り上げた。通常の学級において，ユニバーサルデザインの視点で支援の工夫を行った上で，さらに個別に対応することが必要な児童生徒への支援の工夫として，特別支援学校の例を盛り込んでいる。
- (ウ) これらの具体的取組例を支援内容一覧表と照らし合わせて見ることで，児童生徒の実態に応じた必要な支援を考える時の参考になるように，ヒント集へ掲載した(例1～例35)。

※【どの子どもも「わかる」「できる」を促すための支援内容一覧表】を6，7頁に記す。

【どの子ども「わかる」「できる」を促すための支援内容一覧表】

授業づくりや学級づくりにおいて、これまで通常の学級で行われてきた、学力向上をめざした「わかる授業」のための工夫や配慮を基に、「特別な支援を要する子どもに必要な支援は、他の子どもにとっても助けとなり、あればよりわかりやすくなる支援である」という観点で、整理したものです。

3つの「視点」、9つの「支援の目的」、25の「支援の工夫例」でまとめました。

【3つの視点】

情報提示：わかりやすい情報提示の仕方について

環境整備：活動に取り組みやすい環境整備について

学級集団づくり：生活や学習の基盤である学級集団づくりについて

【具体的取組例】（支援の工夫例に則して、具体的な取組例を35例挙げました。）

小中高：小・中(通常の学級)、高等学校での取組例

特支：特別支援学校での取組例（より個々の実態に応じた支援の工夫例として参考にしてください。）

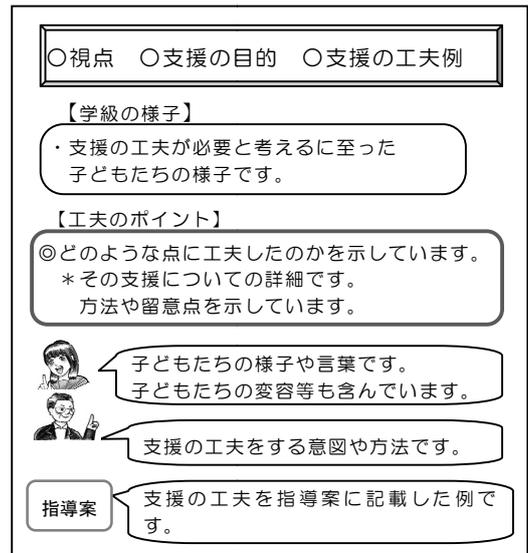
視点	支援の目的	支 援 の 工 夫 例	具体的取組例	
			小中高	特支
1 情報提示	(1) 読むこと、 書くこと を促す	(ア)色遣いや文字サイズ等の配慮で、重要事項等が意識でき、見やすく写しやすくする	例1	
		(イ)難しい漢字や重要事項等に仮名をふるなどで、読みやすくする	例2	例3
		(ウ)文字に指や定規をあてる方法を取り入れるなどで、読む箇所を明確にし、読みやすくする	例4	
		(エ)書く方向を示したり、マス目や罫幅の広いノートを使用したりするなどで、書きやすくする	例5	
	(2) 聞くこと、 話すこと を促す	(ア)ゆっくり、はっきり、端的に平易な言葉で話すなどで、聞き取りやすくする	例6	
		(イ)選択肢の提示や教師による補足説明などで、質問に答えやすくする	例7	
		(ウ)話す手順やキーワード等を提示するなどで、話しやすくする	例8	例9
	(3) 理解を促す	(ア)具体物や写真、映像等を活用して説明をするなどで、イメージをもちやすくする	例10 例11	
		(イ)学習課題に焦点をあてた教材の工夫や課題提示の工夫などで、学習課題を把握しやすくする	例12	
		(ウ)既習事項やポイント等により考え方のヒントを示すなどで、課題解決に取り組みやすくする	例13	
		(エ)操作する活動や動きのある活動を取り入れるなどで、思考を深めやすくする	例14	例15

視点	支援の目的	支 援 の 工 夫 例	具体的取組例	
			小中高	特支
2 環境整備	(1) 落ち着いた取組を促す	(ア)教室前面や黒板の掲示物等を精選して、教室環境を整えるなどで、注意を集中しやすくする	例16	
		(イ)写真やラベル等により場所の手がかりや見本を示すなどで、自分で判断し取り組みやすくする	例17	例18
	(2) 見通しをもつことを促す	(ア)板書やタイマー等により終わりの時間を示すなどで、時間的な見通しをもちやすくする	例19	
		(イ)取組の手順に番号をつけて事前に提示するなど、活動内容の見通しをもちやすくする	例20	例21
		(ウ)年間計画、週予定や日程等を視覚的に提示するなど、学校生活の見通しをもちやすくする	例22	
	(3) 書くことを調整し思考を促す	(ア)書く時間の保障、板書する速さや間などの配慮で、よく考え視写しやすくする	例23	
(イ)代替手段(板書計画に則したプリントやタブレットPC等)を活用するなど、書字に対する負担を軽減し、思考に集中しやすくする		例24 例25	例26	

視点	支援の目的	支 援 の 工 夫 例	具体的取組例	
			小中高	特支
3 学級集団づくり	(1) 表出意欲を高め理解を促す	(ア)各自で考えをまとめ、ペアやグループで共有するなど、発表しやすくし、また思考を深めやすくする	例27	
		(イ)つぶやきや発言を受け止め、安心して表出できるようにし、それらを取り上げて全体で共有するなど、理解を深めやすくする	例28	
	(2) 活動への参加を促す	(ア)他者評価や自己評価の場面を設けるなどで、取組が認められることにより、意欲を持続しやすくする	例29	例30
		(イ)得意なことなどを生かした活動や役割を果たす場面を設けるなどで、主体的に取り組みやすくする	例31	
		(ウ)学習や学級のルールを明確に示すなどで、安心して活動に取り組みやすくする	例32	例33
	(3) 人間関係づくりを促す	(ア)互いを認め合う取組(グループワーク等)で、自己理解や他者理解を深めやすくする	例34	
(イ)適切なタイミングで称賛や感謝の言葉をかけたり、子ども同士で認め合ったりするなど、自己肯定感や所属意識を高めやすくする		例35		

② 具体的取組例のまとめ（図1）

- ア 支援内容一覧表と対応して見ることができるよう、視点と支援の目的、支援の工夫例を明記する。
- イ 児童生徒の実態から支援の目的と必要な支援を考えていることを示すために、児童生徒の困難さの状況を記載する。
- ウ 支援を考える時の参考資料として活用しやすくするために、写真を添え、方法や留意点等の工夫のポイントを具体的に記載する。
- エ 支援の工夫をする意図や方法をより具体的に示すために、教員の言葉で写真に添えて記載する。
- オ 支援の工夫をすることでどのような効果が見られたかを示すために、児童生徒の言葉で写真に添えて記載する。
- カ ユニバーサルデザインの視点をふまえた指導案上の記載例を関連させて見ることができるよう、一部の例について指導案があることを記す。



（図1）

③ ヒント集の作成

ア 名称

ユニバーサルデザインの考え方に学ぶ

【どの子ども「わかる」「できる」をめざす支援の工夫】ヒント集

イ 内容

平成24年度の質問紙調査の結果から、様々な指導や支援の工夫が行われているものの、苦慮している教員も多く、参考となる情報を使いやすい形で提供することの必要性が明らかになった。

このヒント集は、県内での実践を研究協力校等から集め、それらをユニバーサルデザインの視点で見直し、作成したものである。

前項にて記した【どの子ども「わかる」「できる」を促すための支援内容一覧表】の考え方や具体的取組例の他に、これらの支援を指導案へどのように記載するのか、また学校全体でどのように取り組むことができるのかを、研究協力校等の実践を通して紹介する。

ウ 構成

(ア) 活用にあたって

- ・質問紙調査結果から得られた通常の学級の実態と課題
- ・ユニバーサルデザインの視点や【どの子ども「わかる」「できる」を促すための支援内容一覧表】、3つの視点の説明

- (イ) 3つの視点に基づく25の支援の工夫例
 - ・支援内容一覧表の支援の工夫例
- (ウ) 【どの子ども「わかる」「できる」を促すための支援内容一覧表】(以下支援内容一覧表と記す)
- (エ) 具体的取組例の紹介
 - ・記載内容の説明と具体的取組例(例1～例35)
- (オ) ユニバーサルデザインの視点をふまえた支援の指導案への記載例
 - ・指導案に示す支援の書き方のポイント
 - ・展開部分の記載例
- (カ) 学校体制での取組例
 - ・学年や学校全体で支援の方法を深めた実践例
 - ・教員の取組を共有化した実践例

4 研究のまとめ

(1) 成果

- ① 通常の学級で行われてきた指導や支援を、ユニバーサルデザインの視点で見直し整理することに関して
 - ア 小・中・高等・特別支援学校の研究協力校等から様々な実践例が集まった。これらの実践例は、支援をする目的やめざす児童生徒の姿、そのための支援の工夫を検討するための手がかりとなった。
 - イ 通常の学級で行われている様々な実践には、特別な教育的ニーズのある児童生徒にとっても必要な支援が多く含まれていた。また、特別支援学校の実践例の中には、通常の学級での支援を考える時の参考となるものも多かった。特別な教育的ニーズのある児童生徒に必要な支援と通常の学級で行われてきた指導や支援を関連させて見直すことで、ユニバーサルデザインの視点をふまえた支援例として整理することができた。
 - ウ 通常の学級で行われてきた指導や支援を、ユニバーサルデザインの視点で見直す中で明らかになった「情報提示」「環境整備」「学級集団づくり」の3つの視点は、特別支援教育においても重要な視点である。この3つの視点で整理したことで、特別な教育的ニーズのある児童生徒を含めた学級全体への支援としてまとめることができた。
 - エ 学習課題・重要事項の明示や視覚的手がかりの活用などは、よりわかりやすい授業実践に向けた支援として、小・中・高校・特別支援学校どの校種でも取り組みやすい内容であることが研究協力校等の実践から確認できた。こうした取り組みやすい支援をきっかけとして、各教員が授業改善に臨む意識の高揚につながった。
 - オ 研究協力校では、校内研究等に位置づけて実践する中で、教員の共通理解が図られ、授業改善等の推進につながった。個々の教員の取組から学校体制での取組に発展させていくことの必要性を確認した。

② 特別な教育的ニーズのある児童生徒を含めた学級の児童生徒が、「わかった」「できた」と実感できる授業づくりや、その基盤となる学級づくりのための支援の工夫について示すことに関して

ア 支援内容一覧表は、3つの視点に基づいて、支援を行う目的ごとに支援の工夫を整理した。児童生徒の実態から必要な支援を考える手順を示したことで、支援の在り方を探る手がかりとなるのではないかと考える。

イ 支援内容一覧表に則して、具体的取組例を各学校種にわたり取り上げたことで、多くの教員が学級の実態に応じて参考にしやすいものとして示すことができたのではないかと考える。

ウ ユニバーサルデザインの視点で授業や学級づくりを行うことは、通常の学級において、特別な教育的ニーズのある児童生徒へ個別の配慮をする場合の基礎的な環境整備とも言える。本研究でまとめた支援内容一覧表は、こうした環境を整える上で参考にすることができるかと考える。

エ このヒント集は、全県下の地域や学校種の実情に応じた実践に基づき作成したものである。作成したヒント集を県内へ発信することで、日頃取り組んでいる支援が児童生徒の実態に則しているか、何を目的としているかを再確認する際に役立つのではないかと考える。また、よりわかる授業づくりや一人一人の居場所がある学級づくりに向け、必要な支援を探る時の参考資料として活用できるのではないかと考える。

(2) 課題

① 支援内容一覧表の活用と見直し

ア 本研究でまとめた支援内容は、特別な教育的ニーズのある児童生徒やその周辺にある児童生徒にとっては「わかる」「できる」を促すことに役立つ支援である。ここに挙げた支援内容を発展、応用して、学力の高い児童生徒を含めた様々な実態の児童生徒への支援を考えられるように、内容や表現等の見直しを図っていきたい。そのために、次年度以降支援内容一覧表の活用を進め、様々な意見の収集に努め実践例を充実させたい。

イ 教科や単元等に応じた指導や学力が高い児童生徒への配慮も含めた授業にしていくためには、本センターで発信している「授業づくりガイドブック」等を併用し授業構成や授業形態の組み立て方を工夫するなど、指導改善に取り組むことが望まれる。

② 実践上の評価

ア 研究協力校では、実態調査や支援内容一覧表に則した実践に取り組み、これまで取り組んできたことを再度見直したり、新たな視点で支援を考えたりすることの必要性について、教員の意識の変化が見られた。学校体制の中で取り組むことの効果を示されたが、学校の実情等実践する上では課題も多い。支援内容一覧表やヒント集の活用促進についても検討していく必要がある。

イ 課題や活動に取り組む姿勢や意欲等，児童生徒の様子から支援の工夫による効果を捉え，支援内容一覧表を作成した。しかし，ユニバーサルデザインの視点をふまえた支援が，児童生徒の「わかる」「できる」状況に大きく影響しているか客観的な根拠を示すことは難しい。支援内容一覧表の活用を進めていく中で，児童生徒の変容等についての情報を集め，支援内容一覧表の見直しに生かしていく必要がある。

③ ヒント集の啓発と活用

ア インクルーシブ教育システムの構築へ向け，通常の学級における基礎的な環境を整える上で参考となる情報として本研究を県内へ発信し，ヒント集の活用を啓発していく必要がある。

イ 教員個々の活用を促すと共に，学校での活用を促すためには，幅広い経験年齢の教員へ伝えていく必要がある。啓発のためのリーフレットを活用し，本センターの研修事業等を通して紹介したり，教育事務所を通して各学校へ情報を発信したりするなど，計画的な取組を進めていく。

主な参考文献

- ・千葉県教育委員会「『思考し，表現する力』を高める実践モデルプログラム」 2010
- ・千葉県総合教育センター「授業づくりガイドブック：授業力アップ」 2010
- ・千葉県総合教育センター「高等学校における学びを支えるための支援ガイドブック」 2012
- ・千葉県総合教育センター「授業づくりガイドブック：確かな習得を図る「教えて」考えさせる指導」 2012
- ・千葉県総合教育センター「学級づくりガイドブック」 2013
- ・千葉県総合教育センター「平成 26 年度 要覧」 2014
- ・文部科学省「生徒指導提要」 2010
- ・文部科学省「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」 2012
- ・佐藤慎二「通常学級の授業ユニバーサルデザイン」 2009

研究協力校及び研究協力員

1 研究協力校

香取市立福田小学校
 我孫子市立白山中学校
 県立天羽高等学校
 県立東金特別支援学校

2 研究協力員

千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課	指導主事	風戸 正	(平成 26 年度)
	指導主事	上部 誠志	(平成 24, 25 年度)
千葉県教育庁葛南教育事務所	指導主事	井上みどり	(平成 24～26 年度)
千葉県教育庁南房総教育事務所	指導主事	北岡 由佳	(平成 26 年度)
	指導主事	大野由紀子	(平成 24, 25 年度)
香取市立福田小学校	教 諭	萩原 一彦	(平成 24～26 年度)
睦沢町立土睦小学校	教 諭	鶴澤 紀子	(平成 24～26 年度)
我孫子市立白山中学校	教 諭	太田 悦子	(平成 24～26 年度)
市川市立東国分中学校	教 諭	荒井 克典	(平成 24～26 年度)
県立天羽高等学校	教 諭	高木 正人	(平成 24～26 年度)
県立流山おおたかの森高等学校	養護教諭	唐橋 京子	(平成 24～26 年度)
県立東金特別支援学校	教 諭	山中 暢巖	(平成 25, 26 年度)
	教 諭	金坂 京子	(平成 24 年度)
県立槇の実特別支援学校	教 諭	佐々木郁子	(平成 24～26 年度)

所属・職名は当該年度当時

資料

【ユニバーサルデザインの考え方に学ぶ どの子ども「わかる」「できる」をめざす支援の工夫 ヒント集】
【ヒント集内容紹介リーフレット】は、千葉県総合教育センターホームページからダウンロード
できます。

①千葉県総合教育センター ホームページ HPアドレス <http://www.ice.or.jp/nc>

→②特別支援教育部

→③調査研究

→④【ユニバーサルデザインの考え方に学ぶ どの子ども「わかる」「できる」をめざす支援の工夫 ヒント集】
【ヒント集 内容紹介リーフレット】

ヒント集及びリーフレットの一部紹介

1 ユニバーサルデザインの考え方に学ぶ どの子ども「わかる」「できる」をめざす支援の工夫 ヒント集



「I 活用にあたって」より

(2)学級の様子と支援の工夫
子どもたちの様子は、支援の工夫の目的を考える際の参考となります。

このような子どもたちの様子、気になりませんか？

読むことや書くことが苦手	聞くことや話すことが苦手	内容を十分に理解できていない
☐☐支援のヒントはP4		
全体的に落ち着きがなく、集中できない	活動への取りかき方が遅い	書くことに精一杯で、考えるまでいかない
☐☐支援のヒントはP6		
発言する子どもが少ない	活動に参加できない	子どもたちの関係がうまくいっていない
☐☐支援のヒントはP7		

(3)他の実践の紹介
3つの視点に基づく支援の工夫例を具体的に取り上げました。また、指導案への記載例や学校体制での取組例も紹介します。

支援の工夫の具体的な取組例です。(P11~)	支援の工夫の指導案への記載例です。(P47~)	学年や教科、学校全体での取組例です。(P54~)
------------------------	-------------------------	--------------------------

「IV 具体的取組例の紹介」より

「具体的取組例」は、以下のような記載となっています。

【どの子ども「わかる」「できる」を促すための支援内容一覧表】に則して

- 視点
- 支援の目的
- 支援の工夫例

【学級の様子】
・支援の工夫が必要と考えるに至った子どもたちの様子です。

【工夫のポイント】
◎どのような点に工夫したのかを示しています。
*その支援についての詳細です。方法や留意点を示しています。

子どもたちの様子や言葉です。子どもたちの変容等も含んでいます。

支援の工夫をする意図や方法です。

支援の工夫を指導案に記載した例です。展開部分等指導案の一部を載せてあります。

2 ヒント集内容紹介リーフレット

このような子どもたちの様子 気になりませんか？

読むことや書くことが苦手

聞くことや話すことが苦手

内容を十分に理解できていない

全体的に落ち着きがなく、集中できない

活動への取りかかりが悪い

書くことに構一杯で書えるまでいかない

発言する子どもが少ない

活動に参加できない

子どもたちの関係がうまくいっていない

情報提示の仕方を工夫してみよう

支援内容一覧より

場面	支援の目的	支援の工夫例	期待される効果
1	情報提示	1(3) 学習課題に焦点をあてた教材の工夫や理解提示の工夫など、学習課題を把握しやすくする 2(2) 前置学習やポイント等により考え方のヒントを提示するなど、理解促進に取組みやすくする 3(2) 準備活動に取組みやすくする 4(2) 準備活動のある活動を取り入れるなどで、思考を促しやすくする	期待される効果

【工夫のポイント】

◎関心をもたせる教材の工夫

- 学習課題は子どもの身近なものを選択にする
- 操作の活動を取り入れ、集中させたり、思考力を深めたりする

「同じ長さの辺が同じ色のストローだから簡単だよ！」
「透写シートの台紙だから、回転したり裏返して重ねたりしているのを見られるよ。」
「実物や写真で色別に分けると、全体のバランスがよくわかるよ。」

取り組みやすい環境を工夫してみよう

支援内容一覧より

場面	支援の目的	支援の工夫例	期待される効果
2	準備活動	1(2) 前置学習やタイマー等により前回の授業を示すなどで、時間的区別を促しやすくする 2(2) 前置学習やポイント等により考え方のヒントを提示するなど、理解促進に取組みやすくする 3(2) 準備活動に取組みやすくする 4(2) 準備活動のある活動を取り入れるなどで、思考を促しやすくする	期待される効果

【工夫のポイント】

◎取組の手順を視覚的に提示

- 文字に、写真や絵を添えて手順書を作る
- 取組の順番に番号をつける

「お手伝いしてもらって、手順書を見てから受けたら、安心して受けられたわ。」

認め合い安心できる集団づくりを工夫してみよう

支援内容一覧より

場面	支援の目的	支援の工夫例	期待される効果
3	発表活動	1(2) 評価者や自己評価の場面を設けるなどで、取組が認められることにより、意欲を高めやすくする 2(2) 発表活動やポイント等により考え方のヒントを提示するなど、理解促進に取組みやすくする 3(2) 準備活動に取組みやすくする 4(2) 準備活動のある活動を取り入れるなどで、思考を促しやすくする	期待される効果

【工夫のポイント】

◎多様な活動の設定

- 「どうがんばるか」、今からすぐできる具体的な目標を設定させる
- お互いに励みあえる機会を設けて、自己肯定感を向上させる

◎授業中の発言を肯定

- 積極的に発言できる機会を多くする

「ポイントカードの活用は、生徒たちのやる気を引き出してくれました。」
「発言-いつから-どのくらいでできたかを見て、カードに書いて、出してねえよ。」
「発言-いつから-どのくらいでできたかを見て、カードに書いて、出してねえよ。」
「発言-いつから-どのくらいでできたかを見て、カードに書いて、出してねえよ。」

「発言するたびにポイントカードがもらえるよ。」
「発言が苦手な私は、積極的に発言したらもらえるよ。」

指導案 ヒント集にはユニバーサルデザインの視点をふまえた指導案の例を紹介しています。

「意図的にユニバーサルデザインの視点をに入れる」こんな授業を実践してみませんか？

算数 小学3年 「三角形」

観	学習内容と活動	◎UDの視点からの支援 (調評価)
2	1 2年生の学習を振り返り本時の学習内容を確認する。	○2年生で学習した三角形の定義「3本の直線で囲まれている形」を確認する。
10	2 素材をつかむ。 3本のストローを選んで、できるだけたくさんの三角形を作ろう。 ○できるだけいろいろな形の三角形を作る。  ○ペアの友達と作った三角形を見合う。	◎できるだけいろいろな形の三角形を作るように助言する。 情-(3)-(エ) 例 14(P25) ○同じ形の三角形を作っている場合は、違う長さのストローを選ぶように教師が声をかける。 ◎ペアの友達が作った三角形を見て気づいたことを二人で話し合うように声をかける。 学-(1)-(ア)

千葉県総合教育センター研究報告 第420号

テーマ どの子ども「わかる」「できる」をめざす授業や学級づくり
ーユニバーサルデザインの支援をふまえた支援の工夫ー

研究対象校 小学校 中学校 高等学校 特別支援学校

研究領域 教育内容・教育方法

通常の学級で行われてきた指導や支援を、ユニバーサルデザインの視点で見直し、整理することで、特別な教育的ニーズのある児童生徒を含めた学級の児童生徒が、「わかった」「できた」と実感できる授業づくりや、その基盤となる学級づくりのための支援の在り方について示す。

【検索語】 ユニバーサルデザイン 「わかる」「できる」 授業づくり 学級づくり
支援内容一覧表 ヒント集 情報提示 環境整備 学級集団づくり

研究報告 第420号

平成27年3月31日

編集発行者 千葉県総合教育センター所長

百瀬 明宏

発行所 千葉県総合教育センター

〒261-0014 千葉市美浜区若葉2丁目13番

TEL 043(276)1166

FAX 043(272)5128
